

昨今、景観まちづくりが盛んに行われているが、必ずしも、公共事業との連携がうまくいっている訳ではない。公共事業も景観まちづくりも、本来は、地域の人々の心豊かな暮らしを実現するための手段に他ならない。両者は、そもそも、構造物や街並みの色や形を操作するものではなく、地域の人々が、暮らしのあり方を模索しながらそれを具現化し、「風景」として共有してゆく営みのことでもあろう。

そう考えるとき、次世代の我が国の国土のあり様を考える際に、「風景」は大きな意味と可能性を持つのではないか。今回は、広く、公共事業や景観まちづくりに携わる人々にお集まり頂き、「風景」の意義と役割、その可能性について考えてみたい。

2010年12月10日(金) 13:30-17:00

東京大学大講堂(安田講堂)

入場無料

## ■講演

# 中村 良夫 都市をつくる風景 –「風景」の可能性–

(東京工業大学名誉教授)

## ■事例報告

### 九州地整における景観への取り組み

久留省二 (国土交通省九州地方整備局企画部建設専門官)

### 世界遺産を契機にした景観まちづくり

八重樫忠郎 (平泉町建設水道課課長補佐)

### 神奈川県「なぎさ軸広域景観構想」の策定

山室哲也 (神奈川県県土整備局道路部道路管理課副技幹)

## ■パネルディスカッション

パネリスト

羽藤英二 (東京大学大学院工学系研究科准教授)

平野勝也 (東北大学大学院情報科学研究科准教授)

岸 毅明 (国土交通省 都市・地域整備局  
公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室長)

西村 浩 (株式会社ワークヴィジョンズ代表)

コーディネイター

中井 祐 (東京大学大学院工学系研究科教授)

# 「風景」の可能性を問う

–公共事業・景観まちづくりにおける「風景」の意義と役割–